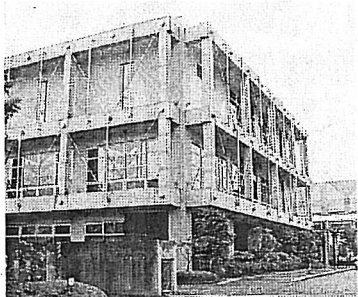


2006年(平成18年)8月5日(土曜日)

皮膚年齢を簡易判定 「アトピー」症状診断

産学でシステム開発へ

横浜市大 ファンケルなどと



生化学的に皮膚の状態を判定するシステム構築の共同研究を始めた(木原生物化学研究所)

横浜市大・木原生物化学研究所の宮崎香教授がプロジェクトを統括する。同大医学部の池沢善郎教授や化粧品・健康食品大手のファンケル、バイオ装置開発ベンチャーのシステムバイオテックス(横浜市)が参加す

る。宮崎教授らは既に皮膚の老化の度合いを示す加齢度と相関関係があるバイオマーカーを三種類、

皮膚の炎症度の判定に役立つバイオマーカーを五種類それぞれ特定し、特許を申請している。さらに多くのサンプルを集め、皮膚の状態とバイオマーカーの発現との関連性をより精密に検証する。皮膚からバイオマーカーを抽出する方法や装置の開発など二連のシステムを構築する。

技術が確立すれば、現在、三日間程度かかる生化学的な皮膚の加齢度の測定が一二時間程度に短縮できる見込み。アトピー性皮膚炎に対して

横浜市立大学はファンケルなどと共同で、「皮膚年齢」を簡単に素早く判定したり、アトピー性皮膚炎の細かな症状の違いを診断できたりするシステムの開発に乗り出した。皮膚の中に含

まれるタンパク質(バイオマーカー)を利用した技術で、システムが確立すれば個々の症状に応じたオーダーメイドの化粧品や治療方法の開発などに役立つという。

も、症状に合わせた治療法の開発などに貢献できるとみている。共同研究は経済産業省が産学官の共同研究を支

援する「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択された。二〇〇六年度は八千六百万円の助成を受ける予定だ。